福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	化学・バイオ工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	NEW EDITION Unicorn English communication Ⅱ (文英堂) ・ ワークブックスタンダード				
担当教員	上野代 明子, 本田 崇洋, 勅使河原 智子				
到達目標					
①学んだ単語を適切に発音し、英文を正しく音読できる。 ②学んだ単語や文法を正確に身につけ、英語で表現できるための基礎的な力を身につける。 ③基礎的な英文読解力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	テキストを中心に文法、単語、適切な発音を身につけ、英語で表現できるための基礎的な力を培う。				
授業の進め方・方法	定期試験は50分の試験を実施する。中間試験は共通科目試験日に実施する。定期試験の成績を60%、平素の成績(課題、小テスト、授業態度)を40%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
注意点	予習、復習を徹底すること。辞書をひき、音読をする習慣をつくること。課題をきちんと提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☒ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson 0	授業の進め方 英語の基本構造	
		2週	Lesson 1 Accessibility for Everyone	比較表現 無生物主語	
		3週	Lesson 1 Accessibility for Everyone	比較表現 無生物主語	
		4週	Lesson 2 The problem We All Live With	分詞 to 不定詞の受動態 倒置	
		5週	Lesson 2 The problem We All Live With	分詞 to 不定詞の受動態 倒置	
		6週	Lesson 3 Eat th "Ugly Carrot, Save the World. "	譲歩 to 不定詞 同格	
		7週	Lesson 3 Eat th "Ugly Carrot, Save the World. "	譲歩 to 不定詞 同格	
		8週	テスト勉強	テスト勉強	
	2ndQ	9週	試験答案返却 Build up 1	前期中間試験答案返却 クリティカルリーディングの練習	
		10週	Lesson 4 Through the Eyes of Imagination	to 不定詞/ 強調構文/ 否定表現	
		11週	Lesson 4 Through the Eyes of Imagination	to 不定詞/ 強調構文/ 否定表現	
		12週	Lesson 5 What is Uniquely Human?	seem to do/ It seems that 節 の使い方 分詞構文完了形 独立分詞構文構造	
		13週	Lesson 5 What is Uniquely Human?	seem to do/ It seems that 節 の使い方 分詞構文完了形 独立分詞構文構造	
		14週	テスト勉強	テスト勉強	
		15週	試験答案返却 Build up 2		
		16週		答案返却剥き身 試験スキャンニング・スキミングの練習	
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 What is Uniquely Human?	先行詞を持たない関係詞/仮定法/to 不定詞	
		2週	Lesson 6 What is Uniquely Human?	先行詞を持たない関係詞/仮定法/to 不定詞	
		3週	Lesson 7 The Power of Choosing	名詞構文/複合関係詞/S+V+it + 名詞「形容詞」 + that節	

4thQ	4週	Lesson 7 The Power of Choosing	名詞構文/複合関係詞/S+V+it + 名詞「形容詞」+ that節
	5週	Lesson 8 The Saguradafamiliar an the 3-D Printer	分詞構文の否定形/There~are+ 分詞構文
	6週	Lesson 8 The Saguradafamiliar an the 3-D Printer	分詞構文の否定形/There~are+ 分詞構文
	7週	Lesson 8 The Saguradafamiliar an the 3-D Printer	Lesson 8 The Saguradafamiliar an the 3-D Printer
	8週	テスト勉強	テスト勉強
	9週	試験答案返却 Build up 3	後期中間試験答案返却 新聞記事を読む
	10週	Lesson 9 The Future of AI	いろいろな未来の表し方/動名詞の意味上の主語・受動態/to不定詞の否定形を理解し, 文を作る.
	11週	Lesson 9 The Future of AI	いろいろな未来の表し方/動名詞の意味上の主語・受動態/to不定詞の否定形を理解し, 文を作る.
	12週	Lesson 10 Just Enough	動名詞の否定形・完了形/仮定法現在/「条件」の表現を理解し, 文を作る.
	13週	Lesson 10 Just Enough	動名詞の否定形・完了形/仮定法現在/「条件」の表現を理解し, 文を作る.
	14週	Lesson 10 Just Enough	動名詞の否定形・完了形/仮定法現在/「条件」の表現を理解し, 文を作る.
	15週	試験答案返却	後期期末試験答案返却
	16週	まとめ	まとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	
		英語運用能力向上のための学習	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2		
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2		
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2		
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2		
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2		
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2		
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2		
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2		

評価割合

試験	小テスト・課題	平常点・授業貢献度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	60	30	10	0	0	0	100
基礎的能力	60	30	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0